

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2023年 11月 15日

学部・学科名：世界教養学部 国際日本学科

担当教員氏名：徳本浩子・近藤有美

1. 区分	語学研修
2. プログラム名称	国際日本学科 春期オーストラリア短期英語研修
3. 渡航先国名	オーストラリア
4. 派遣期間	2023年2月10日(金)～3月12日(日) 31日間
5. 派遣先教育機関名	アデレード大学
6. 参加学生数	9名
7. 派遣目的	英語圏で英語を集中的に学ぶと同時に、オーストラリアの文化をじかに学び、経験すること。また、世界中から集まった異なる文化的背景、社会的背景の学生との共学を通し、自身のものの見方を問い直す経験をする。
8. 派遣内容	4週間に渡って英語授業を受け、英語を使ってオーストラリアの歴史、文化、社会について学び、先住民族や多文化共生社会をテーマにしたディスカッション、ワークショップ、課外活動に参加した。また、毎週一回クラスで校外へ出かけ、実際に英語でアクティビティやタスクをこなし、体験を深めた。
9. 成果	参加学生は、英語を話す、聞く、読む、書くという4技能すべてにおいてが向上し、「英語を使う」自信が格段に増した。また、世界中からの移民が集まっているアデレードでの4週間は、教室での様々な活動だけでなく、ホームステイでの多文化環境を通して、貴重な体験ができたようである。今後中期・長期の留学へ挑戦したいと述べる学生が増えた。
10. 備考	

以上

オーストラリア語学研修報告書

夏期カナダ短期語学研修に続き、春期では約 3 年ぶりの実施となったオーストラリア短期語学研修は、私にとって非常に刺激的な 1 ヶ月間であった。なぜなら、全てが新しい経験であったからだ。その中でも、特に思い出に残った経験について挙げていく。

私達は約 1 ヶ月にわたる期間、それぞれの場所でホームステイをした。私はホームステイをすることが初めてであったため、出発する前からとても不安であった。しかし、オーストラリアに到着するとその不安はすぐに消え去った。ホストファミリーは、とても温かい笑顔で迎えてくれ、休日には私に多くのことを経験させてくれた。その中でも、船に乗り、一緒に釣りに出かけた日は今でも鮮明に記憶に残っている。私のホストファミリーは、自分の船を持ち、休日になると釣りに出かけていた。そこで、私も一緒に釣りに出かけたのだが、初めて見たオーストラリアの海がとても大きく、広く、綺麗なことに感動した。また、釣りをするだけでなく、イルカや、アザラシなどの海の生物を近くで見ることができ、とても貴重な経験となった。また、ある時には、コアラやカンガルーを見るために、一緒に山に登りに行くなど、日本では絶対に経験できないことを沢山することができた。加えて、私はホストファミリーの温かい心に救われることがとても多かった。私が悩み、落ち込んでいる時はいつもそばに居てくれ、話を聞いてくれた。1 ヶ月という短い期間の中で、自分自身をこんなにもさらけ出すことができたのは、ホストファミリーがとても親身に寄り添ってくれたからだと考える。ホストファミリーと過ごした日々をふと思い出す時、私の心はとても温かくなる。この語学研修に参加したことで、素敵なホストファミリーと最高の思い出を作ることができた。

そして、語学研修なだけに、英語の勉強はとても学びに溢れるものであった。私達は、アデレード大学で行なわれるプログラムに参加した。アデレード大学は、オーストラリアの大学の中で 3 番目に歴史が古く、多くの著名人を輩出している大学だ。そのような名誉ある大学で学べたことは、私に多様な価値観を学ばせてくれた。大学内は、様々な国籍や年齢の学生が行き交い、聞こえてくる言語も様々だ。また、勉強に集中できる設備や教室も多く、多くの学生が勉強している姿を見て、自分の学習姿勢を振り返ることに繋がった。授業では、国際日本学科の授業で培った英語力を活かすことが出来たが、反対に、自分の英語力はまだまだ不十分であるとも痛感した。そして、大学が街の中心地にあるため、周辺は美術館や博物館、ショッピングモールやレストランもあり、多くの人で賑わっていた。アデレード大学で学べた経験は、英語に対する意識をより一層強くさせた。

約 1 ヶ月という期間の中で、楽しいことも、もちろんそうでないことも多く経験した。しかし、全てが学びへと繋がり、私自身の心も英語力も成長することができた。オーストラリア語学研修に参加してできた多くの経験を、これからの将来に必ず活かしていきたい。

短期語学研修報告書

今回の国際日本学科主催の短期語学研修は、オーストラリアのアデレードにて実施された。研修期間は2/10～3/12と約4週間のプログラムだった。その期間内での経験から得たことについて2つ述べる。

一つ目がこの研修が自身の日本での生活を見直すきっかけになったことだ。アデレードという国は南オーストラリアに位置しており、非常に過ごしやすい場所であった。湿度はなく日差しが強いものの、日陰に入れば寒さを感じるほど日本とはかなり気候が違うということが印象的だった。アデレードはオーストラリアの中でも乾燥した地帯に入るらしく、ニュースなどを見ていても他の地域に比べて悪天候になることは少なく、しかしその分水が希少なものとされていた。今回の研修では、ホームステイが採用された。“水が貴重”ということについて、事前研修などでもかなり示唆されていたため覚悟はしていたが、実際にその生活をしてみると苦勞することがたくさんあり、改めてどれだけ日本での生活が恵まれているのかについて考えるきっかけとなった。各家により異なっていたみたいだが、私のホームステイ先ではシャワータイムは5分、洗濯は週に一度と決められていた。また外で販売されている水の価格は500mlが約700円と、水の貴重度を知らせるには十分すぎるほどの価格だった。水が貴重とされている場所があることは知っていたが、知っているのと体感するのとでは学び得ることが全く異なると気付かされた。この出来事が私にとって一番の衝撃と学びになった。

二つ目が自分の力で生きるということだ。私たちは今回、オーストラリアの中でも歴史のある、アデレード大学に通った。大学へは、各々ホームステイ先から交通手段を利用して通っていた。初めての場所で、日本人がほとんどいない場所で、一人で行動する時間というのがかなりあった。初めはそのことに緊張や戸惑い、不安が多くあったが、通う中で現地の方とも馴染み交流することが出来るようになった。移民の国と称されているように、日本人でも決して浮くことはなく、むしろ受け入れてくれる方のほうが多かった。そのような彼らの人柄に、何度も救われていたと思う。またホームステイでは四六時中英語を使用しなければならないことに負担こそ感じていたが、生きた英語を学ぶことが出来た、非常に良い経験となった。

以上のように、今回の海外研修はこれまでの自身を見直し成長するきっかけとなった。日本に留まっていたら決してわからなかった日本の一面を知ることが出来た。この経験を踏まえて、国際日本学科の学生として、日本の内側からだけではなく外側からも日本について見直し、今後発信していきたいと思う。